

# そよかぜ 1月園便り

令和6年1月4日(木)

西東京市立そよかぜ保育園

新年 あけまして おめでとうございます。

2024年がスタートしました。皆さんお正月はどのように過ごされたでしょうか。日本は南北に長い国なので、気候や風土の違いからその地域に伝わる文化や風習など、様々なものがありますね。

帰省された方は地元ならではの「おせち料理やお雑煮」を楽しまれたのではないのでしょうか。お雑煮のお餅の中にあんこが入っている所もあるとか…全国各地のお雑煮を食べてみたくなりますね。(食いしん坊の発想!?)

今年もたくさん身体を動かして遊んで、モリモリ食べて、元気いっぱい的一年にしましょう!

昨年の締めくくりは年長さんの「森は生きている」の観劇でした。(12月27日) 少しずつ保育の中で歌をうたい始め、本の読み聞かせを経て歌への思いも更に膨らみ、子どもたちの歌声は日に日に力強さや楽しさを増していきました。

そして観劇。目を輝かせながら食い入るように見ている子どもたち。お話の世界にどっぷり浸っている様子が伝わってきます。

もちろん劇中で歌が始まると、「これだ!」という感じで更に目を輝かせていました。きっとこの経験が、これからの子どもたちの生活の色々な場面に彩を添えてくれることでしょう。

以前にも少し触れていますが、子どもたちに伝えていきたい文化の中でも「絵本」や「お話」はとても大切なものとして位置付けています。そよかぜ保育園では年齢やその時々状況に合ったものを選んで読み聞かせをしたり、語り聞かせをしたりしています。

0歳~1歳の一語文が出始めた子どもたちは身近なひとや動物の関わり合いなどの絵を見ながら、言葉をくり返し真似をして覚えていきます。やがて二語文が出てきた2歳児には助詞がふんだんに使われているお話が良いと思います。「だれが」「どこへ」「だれと」「なにをしに」などの問いかけがくり返されている楽しい絵本がお勧めです。

3歳を迎える頃には「3びきのごぶた」「3びきのやぎのガラガラドン」「3びきのくま」などをとても面白がります。民話には3人の娘や息子が登場し、それ以上の数が出てくることは殆どありません。このころは「三つ」という数が「大勢」「たくさん」を意味するからです。そして3番目がいつも良くて、3回同じようなことをくり返して3回目に成功する時の子どもたちの喜びや安心は大きいものです。同じ話を何回くり返し聞いても飽きることはありません。

と言ったところで、紙面の都合により4歳・5歳・6歳については来月書かせていただきますね。これからも、子どもたちがたくさんのお話に触れる機会を作っていきたいと思っています。また皆さんとも共有できるよう、発信していきますね。

<https://soyokaze-hoikuen.net/>



12月27日（水）

年長クラスが観光バスにて新宿紀伊國屋サザンシアターへ。  
 クラスで読んでいる本『森は生きている』の劇を観てきました。  
 歌が大好きな年長さん。翌日朝から口ずさんでおり、新しい  
 歌も覚え始め、また歌声が園に響き渡っていますよ。



左のものは年長クラスが読んで  
 いる本です。

原作：サムエル・マルシャーク  
 文：宮川やすえ  
 絵：宝永たかこ  
 出版社：小学館



1月の行事

日	月	火	水	木	金	土
	1 元日	2	3	4	5 七草	6
7	8 成人の日	9	10 5才 七福神巡り	11 鏡開き	12	13
14	15 5才みどり交流	16	17 布団乾燥	18	19 5才 四園交流	20
21	22	23 避難訓練 5オクラス懇談会 17:00~18:00	24	25 誕生会 4.5才 味噌作り	26 4オクラス懇談会 17:00~18:00	27
28	29	30	31 3オクラス懇談会 17:00~18:00			

## 新年のお喜びを申し上げます

♪ おおさむ こさむ やまから こぞうが とんできた  
なんと いった とんできた さむいとあった とんできた ♪

来年度予算の概要が見えてきました。仕事と育児の両立のための環境整備に係る費用や、保育士の配置基準がなんと74年振りに4・5才児30人を1人の保育士で見るという配置基準を25人で1人の配置に改善する等が具体化しております。その他 子ども誰でも通園制度（仮称）の実施に向け、議論がなされています。子どもを中心に考え、子どもの成長の観点から「すべての子どもの育ちを応援し、子どもの良質な成育環境を整備することを目的としている」といわれておりますが、受け入れ態勢などに課題がありどのように進むのか不安は募ります。

子ども一人一人が大事にされる社会となることを願うばかりです。

**正月** 年神様を迎え旧年の豊作と平穏を感謝し、今年の豊作と平安を祈願し、神への供物として捧げたおせちを頂き、普段とは違った遊びやご馳走を頂いたお正月 それは特別な「ハレ」の日です。

正月7日には一年の邪気を払うよう願いを込め、七草を食べます。

せり なずな（ぺんぺんぐさ） ごぎょう（ははこぐさ） はこべら（はこべ）  
ほとけのざ（こおにたびらこ） すずな（かぶ） すずしろ（だいこん）

この習慣は鎌倉時代にはすでにあったようです。お正月に食べ過ぎた胃を休めるということもあるのでしょうが、もともとは寒い時期に体調を整えるための薬草として食べていたとも言われます。

冬に不足しがちなビタミンを補い、健康を願い、受け継がれてきたものです。

「唐土の 鳥と 日本の 鳥が 飛び交わさぬうちに なずな七草 カチカチ・・・」と唱えながら、まな板の上で、包丁ならしていた母の姿を思い出します。

## 今年もよろしくお祈いします

### 職員のつぶやき

4月からたつの子の会で1年目の栄養士として初めての経験を沢山しました。特に記憶に残っているのは5月の鯉捌きです。生きている鯉を絞めて鱗を取る作業をする中で、まだ元気に尾ひれを動かす鯉の力強さに驚きました。その私のすぐ近くには、鯉を観察して沢山の疑問を感じて質問する子どもたちがいました。私は怖がる子や嫌がる子もいると思っていましたが、興味津々に鯉を見ている子が多く、また鋭い観察力を持っている子が多いことに驚きました。

夏ころには華道部にいたこともあり、園内に花を生けました。拙い作品ではありましたが本物の花を飾る事は私自身のリフレッシュにもなりました。季節の花が園内で身近にあるという環境は良いなど改めて感じる機会でした。栄養士として、季節の食材を提供し、給食を通して子どもたちに沢山経験してもらえよう、これからも一生懸命に仕事に取り組んでいきます。

そよかぜ保育園 鈴木 靖菜